

仇

簿

下

911.3
八
下

誹論卷之三

平安

秋月下白露編輯

一 服予この龜鑑とてと古人の言をあまこころをいかにし
世の名譽とていふる録年沖の事事にしつゝ追悼與ひの記



故赤穂城主淺野少府監長矩之舊臣
大石内藏之助四十六人同志異体報
亡君之讎今茲二月四日官裁下令一
時伏又齊屍

万世のさつゝをひるへ肺肝をうぐ

うぐいといけあふ能ハなごころ

其角

くき井のかけひのおとハかつとも
なふとこあふぬふの内さま

曹叅十并祐威亡一并より説の

後を弟ひけろく
大破 虎

まことのおこしをたてし後をまことまにハ

をまねく末よ 秋楓そふく

月法集を叙よ
後京極攝政

村くく造りまへしわくくろねよう

わくくいひつるまろねのあ

佛法よよええらさかみ八条の館の

清らふし書附たり
披王

まといしものおとも同一望也の年

しつさう秋よあつくき川一海もこ

と醜醜と病勢なへく
心敬僧於

まろねのまろねくちの涼ひうま

申秋十とね法志
宇砥法海

一年の月まきくまろれ今看うま

秋夜
十万まきあひ

初夜をいひつらあつそふ秋よあうら

初夜をいひつらあつそふ秋よあうら

別派顛倒... 今や... 時代の...
ハ従...
軒堂 憲堂 蘭堂 枝堂 谷堂

け...の歌... 囉...理...鬼貫

う...の...
清光

狂而堂其角

名月...
深雪

浴拵舎去来

窓...の門

納涼

雪中卷嵐雪

あ...の...
あ...の...
あ...の...
あ...の...

あ...の...
あ...の...
あ...の...
あ...の...

古...
神官

あ...の...
守武

あ...の...
宗鑑

あ...の...
貞徳

あ...の...
季吟

あ...の...
湖春

宗因
 素堂
 梅感

歳旦

山を亂きり〜も〜る〜る〜る
 西鶴
 休甫
 任口
 徳元
 一三

能因や待ふ花あゝ後授人^貞 望
 親の杖よな〜〜 呆也 柳 庭 木 空存
 菊もも霜はととけはく 蝶も〜い 幽山
 子も佛も〜ぬ 暖後の様 狩 不角
 か〜〜〜〜〜 事と決ま〜 遊女 奥州
 ほ〜〜〜〜〜 誰も〜 尚白
 吹も〜〜〜〜〜 元順
 木か〜〜の 葉は〜〜 海の音 言水
 ほ〜〜〜 枝の音も おほろ月 團水
 三味線も 小鼓も〜の 梅の花 來山

十六夜もまこと文料の都	うま	芭蕉
又月や指をほりと眠の	子	其角
親の忍火焼くれり	そら	亀翁
蒲葉もそよほり	山	嵐雪
客人よとめとてく	く	禪兆
来年ハ	く	露川
名月やまの菫のあは	ぬ	路通
雨の口や門さけて	り	信徳
勝意もいふ	く	奉白
折之後	ま	沼徳

名月や隠者の門よ	急	揚	孤屋
まき葉のあは	く	や	智月
る	と	姨	東順
湖の	あ	ま	去来
の	う	き	立吟
梅	ゆ	き	秋風
いろ	く	の	杵水
あ	ま	く	木岡
ハ	橋	の	羊素

契名通意

沖さしあしきつ、海の花は 鬼貫

船梁のあまをさる海の波如を 秋色

横つらしあしきつ、を合らさ 梅舌

木枯よ二日の月乃、吹らるる 荷分

あつ針のちやとて、芥子の花 越人

白芥子、ももも、花の葉は、 嵐蘭

かんとるまとも、いふ花んて、 乙由

麦刈と、あまは、のころ、 作着菟

を、花と、あまは、けい、の、一、 落梧

けい、と、ハ、一、交、よ、相、の、二、 明水

痛らて、海の、人あつら 恕回

鳴ら、あしきつ、は、海を、 美津

新ら、あしきつ、もろは、 冠里

若ら、あしきつ、秋の、 之道

そ、あしきつ、人あつら 加橋

つ、あしきつ、秋の、 小春

あ、あしきつ、あまの、 千代

あ、あしきつ、あまの、 加生

歌後房郷

ほら、あしきつ、あまの、 一井

くわはかへんりふ葉ふらふふ葉ふり内女とて

いりも動ふのふらふらおねるも野水

禪寺のねるふらふら神神宮元兆

志さふらふらふら神僧風水

いつまてうまふらふら神僧千那

かふ房のふらふらふら暮年

起くのふらふらふら仙化

清うたぐ大三十日の茶酒の菊蚊足

四月朔日高麻寺のまふらふら

まふらふらふら

夜うへつ川へ流らぬ露ふら女その

流るるあふる流るるけやま白田游力

月流るるまふら八出ぬお津川洲瀬

又月六日大坂討死の遠馬を甲ひ

大坂わらぬふらふら武門蟬吟

日の丘わらぬふらふら異とと平の古正秀

お洲へつらふらけ初る葉や秋の風松風

白柳やふらふらふら氷の月挑隣

暮るふら柳つらふらふら支考

藤あふらふら風弦

非皆

染〜〜如雪を吐ての縄 少人 重翠

霧の吐き出し〜〜 遊女 幸和

穠けこ中〜〜 武門 洒堂

男〜〜 遊女 花崎

温石のあ〜〜 武門 露治

矢引や水田のよを 武門 維然

ぬけ〜〜 武門 矢艸

英徳園の某礼〜〜

己方〜〜 近衛 信乃公

夜神系〜〜 近衛 史邦

温繁像あ〜〜 近衛 佑圃

碎〜〜 近衛 仙鶴

予〜〜 近衛 桑原信

大名の森〜〜 近衛 許六

いと折〜〜 近衛 雪柴

くはろ〜〜 近衛 ト天

長ね〜〜 近衛 野坡

障子紙〜〜 近衛 素龍

並ね〜〜 近衛 卧高

新燈を志〜〜 近衛 探芝

暮る秋ハ情さうりもなうけり
 北枝
 神さうと忌さうりハさうり
 賀子
 人のも忌ハあさうぬ火柱さうり
 立志
 物の多結乳のむさうの口けり
 重徳
 心内もたのしきあうり一日うな
 丹野
 胡ゆのさうり又さうりる裕らさ
 吾仲
 啼さうり門さうりさうりさうり
 鷺助
 生さうりる人さうり秋の氣さうり
 鋤立
 山さうりさうりさうりて果さうり
 常牧

室お普門橋のさうり

吾おさうり秋の夜とけさうりさうり
 角々
 初さうりや今夜花さうりあさうり
 岩翁
 秋さうりさうりさうりさうりさうり
 揚水
 雪の夜や布さうりかさうりさうり
 千川
 摺舞のさうりさうりさうりさうり
 汀鴉
 さうりさうりさうりさうりさうり
 重之
 さうりさうりさうりさうりさうり
 亨先
 さうりさうりさうりさうりさうり
 松青
 さうりさうりさうりさうりさうり
 肅山
 さうりさうりさうりさうりさうり
 今水

かたもろの指もあけてきく流 昌席

たろろの指もあけてきく流 三箇

た三十日静よあてぬ葉のうま 松風

人の心をあはしよ

無きこと終りもあはしよ 方山

思ひあはしよあはしよ 才磨

辞世

無きこと終りもあはしよ 晩山

鳴るもあはしよあはしよ 一笑

もろもあはしよあはしよ 心圭

待きもあはしよあはしよ 惺菴

亭もあはしよあはしよ 從老不知

そりもあはしよあはしよ 忠知

あもあはしよあはしよ 鉄杖

陽もあはしよあはしよ 普船

まもあはしよあはしよ 蓬仙

鬼灯もあはしよあはしよ 青楓

寺もあはしよあはしよ 担下

袴もあはしよあはしよ 子堂

花もあはしよあはしよ 春澄

野之鳥の後を跡てまゝ 善の水 傳 祇空

田の人、活てかへるり 拈法水 大主

白龍ちやんをよまゝ きぬをまの眉 僧 目能

花さの紙いもぬ 影て中 人あつめ 任口

聖の梅や擗く あらうく 縁座取 渭北

けくの花 袂うく ちと 使うま 少人 移竹

舞臺 作の 拍子 紙めらうと 明家か 少人 桃後

熊坂乃 薙刀 あつるまね あらうま 老鼠

今 朔出く 月をいつう へるひう 羅人

俺く さい あゝ志を かけける 火 燧うま うん 梅光

川あゝ 龍 龍まよも こそま くらうの 月 百人 他者私

地吹ハ 蝶め 唇め 柳うま 琴風

朔夕コ ころろ ころろ ころろ 碓 女 月ん

新く とき 菴 ふも ころろ の 暹 龍お 望鳥

くつと まよこ ふさ ねう びさる 火 龍お 工谷

離れ じや ころろ も 乳 母の ちろろ 浮萍

白晝 中 初 吉め ころろ 舞 紹二

ほろろ とき 守 あ の ころろ ころろ や 浦 吹 舟 粘蓬

さほろろ の ころろ ころろ ぬ 牡丹 ころろ 天艸

たゞ ころろ つけて 人を 森 さい ぬ ころろ 龍お 玖也

蘇引よその蘇むとよまのさうな 木因

との色をうけて折るんらあめ 菊 サそめ

かきうおこなうて年々う拍ら頂 一品

七軒をきききききききききき 俊似

響の声小説とち折取中かま 市折

最上川

猶ふよ休くかぬてや飛あそび 曾良

疎くさむ人よかきぬえ合ひ 玉嘯

響りて後後へのらん法平が 如泉

併うし林そきききききききき 一髪

梅折くあきうらむ寸望中うま

志向よき料こききききききき 亀助

崎くき入おさうぬ怪うま 鼠彈

このうらうらな身をきききききき
らきりへき折く思ひあき

多きやあきりきんもきききき 世女 俣志

水き口代種つく初もきききき 卜枝

親もきおれしきき人内抛うほ 傘下

梅笑やうらあききききききき 冷々

明日ハあめ合ふらうらうのきき 西武

白きききききききききききき 竹亭

最より時々あききききききき 我黒

余のふゆにまをさく負るるるの菊 和及
 須磨あやうゆきの果は神女引 一鈴
 通るおと馳走をくぬ、盤、男 魯町
 あくふりーぬさく燧さく秋の雪 橙堂
 流あゝく雪さくやふとあろ子 流水
 を竹の門おほえまをき柳うま 風國
 秘くはまそ及まれば麻のまの向は 不障
 くさくさぬれく牡丹うま 恭以
 孫娘をくまいて
 霜をさく離ぼるれまきくの花 猿雉

上童けりも標のほとさかろ 西吟
 かくまそもかまをあや丁かろ 鷺水
 いろくの名もむつくやまの柳 珍磧
 風吹ぬ日ハ赤なるの柳うま 技遊
 日人くく所榎物ん女房連 好春
 編く行まろらん其こ後も 舎棘
 早し女や泣子の方へ極く出 乘拾
 松蔭は孫組まろる田極うま 千泉
 夕立やまもなれた人の寝まを 專吟
 山姥ういそぬさわまのそ子 由平

如といひ鬼ともいふれ百合の元 大森茂七の画賛 旧室

乙月もゆサ日系とぬ日枝のふ 三千風

抱籠わひとせあうの弁も了 希因

らあふあふぬわ余起の涌亭 武門 風虎

消房わ棟味ゆふ背く信の上 また方よりし 瓢水

祇軍今わ何ふうふ人のふ 保友

心里わ路中とくく人むさし 觀水

と後いせよかしくまうこの梅う宿 市川 栢筵

城島八場の場合と止宿して

啼けわ麻なうは皮を萩の場 種玉葎 宗祇

附言

祖父ハ自笑又ハ其笑兄を瑞笑と喚ぶ
後ハ白露とあつとむ業のいとありとを
誦語をととのへて誦論の一巻を編輯
たり病床より師へぬある夜甚弱の
句を感して

痛むハの夜なきよりしておぼつらさ

かく一句を吐て三十三あうう家獵月の中
九日と世とまうぬあうう追福のいとまう
をもまううんぬおのうういえよう誦句と

かくんはせはれくうもははらうぬらふ
 小集を梓よのゆい思くく次年危うと
 思くく知己徳君子の句を兼くあつて後
 録いささか他善のまひひよもたれ
 影ああらをまはけまつぬ

昔寛政十年戊午春

又自笑
 又自笑

附録

春

春のさうきくくえのきさく次 江戸 心祇
 春もや、礼者糸くく女うま 同 春来
 さやきよなれく三日の胡麻 京 定雅
 那那のまくらまつとま 京 龍 危言
 富まきゆうく摘あるさ 武門 菜 天府
 正月も娘のま 江戸 成美
 梅うまよ胡日の遠入 京 眞の完 分川
 梅鳥カア海老花 同 花を 同 紹朴
 梅きうたの隅を 僧 山外

梅うまの存明く花よ戻るま尾張岱青

花柳や二筋三筋老木よ江戸折居

むつしや柳う門の縄僧只丸

いつまも娘あけ路の柳う中村慶子

白浪とまう刈輝の香解京園更

善惜や流し日のと守京吞獅

居まうふや西内を大阪升六

此頃の花よあり尾張魁門

連よあふ江戸亀文

為の鳥や京俵雨

川きわんを白えの山さくら茅盲人祇峯

花まきや備前松後

福も花も上居吟白鶴

あまはあう盲人一種

花賣の初まつ京白波

桜とそ廓あ京島原遊女大橋

海棠のおと沢村其答

葉の花や京芋秋

と糸よ同管鳥

喜の物乃江戸夕雲

曙のさうらうさうらうさうらうさうの州 備後 若翁

於られし葉のふしの霞はまきの州 京歌妓 うて

晴くわ日よつしまのしつらま 大阪 麦光

暮れの遠よ岸の小松うら 京 蒼虬

接穂とくはるはる折ぬら 江戸 素外

あつこのわとあまのさき 尾張 月居

あつこのわとあまのさき 京 亞満

元とわらよあつこれ 尾張 蕪村

燦々羽のきや 江戸 萬岱

嵐とく思葉の糸や 江戸 樓川

あつこのわとあまのさき 尾張 春郊

これ来し 尾張 一音

草の縁襟 大阪 如圭

出代り 江戸 完来

暮れ 尾張 沙漠

あつこのわとあまのさき 江戸 白雲

腕の 京 杜口

あつこのわとあまのさき 江戸 未得

又まを惜 江戸 不言

あつこのわとあまのさき 江戸 蘭尼

初解や国出度も治まう大坂 左逸
 通梅日比の山よとゆるう南尾張 昆明
 澄雪や花穂さう口よハ物幽是く備前 秀露

夏

是ハ一遠くまきまき江戸 宗瑞
 芝野一あまをともあれ初裕大坂 舍鳳
 ほくまきハ一まきまき入リ調和
 浮くまきまきや自剃のほん大坂 祐涼
 む奴二ね等も後の月ね大魯
 日本よと先ほくくハ初う江戸 菜陽

一粒も端まよ一のまき借 一嶋
 まきまきハ一まきまきハ一文勝
 舌端まきまきハ一まきまき安士
 あまのまきまきのまきまき大坂 下物
 抗む付まきまきハ一まきまき江戸 青峨
 あまのまきの胸うまきまき尾張 卧英
 まきまきハ一まきまきハ一捨石
 ぬまきまきハ一まきまき江戸 百里
 まきまきハ一まきまきハ一大坂 銀獅
 まきまきハ一まきまきハ一胡友

捧きつゝおのぬ海ありのりつら

助叟

飛雪あれといまんもひらうま

太祇

鮑を壓ひまゝ又石を巻きとらう

青原

五月の由やある夜ひそたねの月

蓼太

志まき軒されもさるる嘆きうら

葵足

とらむとと物も走らけしのは

修古

花かたは是らふ雪のふらうま

岳輅

貴もむはふらうらと花咲き地

珉上

まろ舟の志まき入らるも定やう

卜人

啼きつゝ川神降の日乾う南

宋阿

口もつゝそのし淋れも新か

蒼狐

まろつゝ白髪もそえつ霧の海

五筑

丸くぬ丸さよ志まき花あうま

鶴英

ふらつゝの枝中扇の持指ま

晚鈴

服うけハ母の扇の葉をうま

湖十

是くあり命もつけろ

兔士

片端の塵ちりきよ出る清き水

買明

夕まのそ風のそまこと思ひ日か

道立

髪瘦も新衣の中のをとらう

如真

肌かゝと女乃環の異とらうま

田女

国悲

京島原

江戸

江戸

同

京

尾張

日

江戸

江戸

美濃

伏見

大阪

江戸

伊勢

江戸

京

伊勢

樽川毒

登新やうさくまのようなぬえん 吳龍

是あとの許よほひるん八日うま 京 竹洞

露もろれ女めてて土用干 大阪 布門

何らちやあぬのまの草 江戸 露水

六月ハ増まれまのよ折後川 江戸 竹護

川とよま新地や折後川 京 鳥西

...

...

...

春の秋

今朝秋とまてて門掃男うま 江戸 存義

ふよさつる今の蔓やうこの秋 京 斗文

志えわう以雨宮紙麻の夢あゝ 大阪 拾宜

魂扱わぬくはうまの佛あゝ 江戸 平砂

言灯籠塵切記あゝさうりく 同 貞佐

折らういゝいゝとて灯籠うま 結城 雁岩

大又言よ月一息の光りうま 京 五雲

仇人とち拍子の合子踊りか 同 百池

猿とともあゝく起る角力か 嵯峨 雅因

桐葉よこぬらの濡る垣根うま 大阪 人左

まはる時落くくとも 江戸 亀成

白露のあう一と 京 丸生

まはる時落くくとも 大阪 万翁

谷津よ赤氷の人わ菊の花 京 田福

白くくわ色はう 日 南川

花ハ縁式ノ堂世コレ
まハ清式ノ中ノめき

長くく 大阪 二柳

吹くく 涼帝

黍乃穂の動けハ 江戸 午心

日海波志つう 京 寛之

聖と似よと 大阪 嘯山

秋の蝶ね 日 友國

虫啼や 日 甘三

遠く 江戸 秋之坊

名月や 江戸 治山

嵐よく 伊勢 標良

名月や 江戸 古友

石山や 京 月溪

多病累年酒量比往日十僅二三

己矣市より夕の外あはけ 武門 龍眠

秋そわや定まれば世より定あされ 京 山陀

物の氣き知れば秋の暮是ら 尾張 羅城

一葉是二葉是しても鶴うま 江戸 鶴郎

お夢のそくと寝れば夢うま 江戸 春堂

唯よそ入淋くはをを拵尾花 京 宗湖

一葉を云葉の連や半葉 京 維駒

そよよあはれおを拵り秋のゆ 京 貞山

雲葉や松子やひえな夕うま 京 雨遠

鼻毛ぬはく秋を慰む海うま 京 鳴雄

十月あはれし月ふも十三お 江戸 百菴

門口小人乾きしぬ 尾張 秋のそよ 青蘿

日の暮ぬ日ハるれも秋のそよ 尾張 士朗

晴らし折ぬそよの拵うま 尾張 溜北

加茂川のそよ一筋より 江戸 秋津富

夕暮もほろく 同 九月三日 同 雞口

冬
乃句與りの時

乃美よとれくれの仮名書き大阪宗普

はれも此の松樹となる時ぬら和州守貞

あつくとおもぬ六つのはれとら江戸一通

初雪や神美まふ人よよ江戸超波

千ハ松ふる雪乃ぬら京几董

花とらこし折きハ雪の小は洛東負柳

降き粉もまふけの股よた京大雅堂

志とらハあつと降の巨京漆桶

降るのよぬあるふら京日私京渡牛

美とらぬ美やむくよ大阪女九簾

志とらハあつと雪のよ加賀む久

よつくと日のけり加賀枯樹加賀麥水

なつとハ又けりや河江戸豚汁 白句

大根の力ふそも江戸きとら汁 泰里

ふらとらとらとらハリマ須六の二ハリマ根が 青角

志とらけよとらとら京のへ京小京似京城京 駝岳

顔とらとら自京笑京う京とら京乃京今京も京き京 鉄僧

ま京とらとらとら京は京わ京く京ら京次京取京 中村 鯉長

鹽辞世よりかへぬ室さうな山下里虹

振袖の似地を誰かぬくわさ大阪大江丸

とまふとさ障りのあふて曉の暮京蝶夢

ほろくとも鼻息ふらつた大根引略升

病後の吟

干鮭を志らうてふ皮骨うま尾張曉臺

大根といふ味方ありきこり蓮之

瓢箪は酒は入ぬを祥き死轍士

さへはらうと身をぬきぬ鐘下

縁として寺のめて死不卜

市人二年惜む顔公曳

訪ひ往け只訪来く江戸宇呂

頬杖よりきり年やお負為

わさくはし藤まう大坂芽柴

追加

まろゆと遙く伸乃帆琉球人

籠年女よ其心か朝鮮人訥齋

千六夜も白髪一筋同菜山

相国寺維明禅師の扇に松の影の
さへはらうと画は賛をそそぎよ

ねろ枝の朝日を固めて吳郡益涵丸

唯ひくしけいふるり
たをぬれりぬる大の
るのあちぬはせの
しあこのおろしけい
空のしるしけい
かろしけい



文化五戊辰年初春

京都書林

野田治兵衛 合

野田藤 八

森 九兵衛

葛城長兵衛

大阪書肆

安藤八右衛門

梓

大政書集

安藏八式書門

林

葛城身兵衛

森 八兵衛

狸田藏 八

合

京橋書林

狸田藏 兵衛

文正丸氣平咏春



